

## Profile



かわの ゆりえ

★河野 由里恵 Kawano Yurie ヴァイオリン

愛知県出身。愛知県立芸術大学首席卒業。中村桃子賞、桑原賞受賞。

- JTアートホール期待の音大生シリーズ、JTが育てるアンサンブルシリーズに出演。
- 第18回日本クラシック音楽コンクール全国大会第3位(最高位)。
- 第14回KOBEL国際学生音楽コンクール最優秀賞、兵庫県知事賞、タカハシパール賞受賞。平成20年度優秀学生賞受賞。第21回レ・スプレンドル音楽コンクール室内楽部門第1位。台湾に日台交流演奏会に出演。
- これまでに、長谷部直子、上田明子、岡山芳子、玉井菜採の各氏に師事。(財)北野生涯教育振興会音楽奨学生。現在、東京藝術大学修士課程2年在学中。



はぎの ようこ

★萩野 陽子 HAGINO Yoko ピアノ

東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。第68回読売新人演奏会に出演。ベーゼンドルファー賞受賞在学中、学内モーニングコンサートにて芸大オーケストラと共演、室内楽定期演奏会などに出演。東京藝術大学音楽堂における2000年ショパン全曲演奏会に出演。ボストンのロンジー音楽院、及びボストン音楽院に於いて演奏家資格取得。第9回日本モーツァルトコンクールで最高位、マサチューセッツ州スタンウェイソサエティピアノコンペティション第2位、ニューイングランド国際室内楽コンクール第2位など国内外のコンクールに入賞。これまでに、作曲を中田直宏、ピアノを加藤三幸、佐野翠、田辺緑、K. シルデ、渡辺健二、V. ローゼンバウム、M. ルーイン、室内楽を植田克巳、岡山潔の各氏に

師事。現在、ボストン音楽院にて伴奏助手。ハーバード大学における現代音楽研究科[Harvard Group Of Music]のピアニストを務め、近年はアメリカ各地のオーケストラと共演するなど、ソリストおよび室内楽奏者として多くのコンサートに出演している。ムジカ・ヴィッツのメンバーとして日本各地においても活躍中。

きんばら さとこ

★金原 聡子 Kinbara Satoko ソプラノ



愛知県立旭丘高等学校卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。明治安田クオリティーオブライフ文化財団の助成を受けて、その後、文化庁新進芸術家海外研修生としてボストンに留学。ロンジー音楽院オペラ科修了。これまでに「魔笛」夜の女王、「劇場支配人」のマダム・ヘルツ、「ランメルモールのルチア」ルチア、「ラ・ボエーム」ムゼッタ、「ファルススタッフ」のナンネッタ等の役でオペラのステージに立つ。またベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」、モーツァルト「八短調ミサ」、フォーレ「レクイエム」、バッハ「短調ミサ」等の宗教曲のソリストとしても活躍。日伊コンクール第2位。藤沢オペラコンクール奨励賞。ニューヨーク、キャリアブリッジアワードコンペティションのファイナリスト。ピーター・エルヴィンスコンペティション第2位他、国内外の数々のコンクールに入賞。現在岐阜大学非常勤講師。東京二期会会員。

## 第1部 Program & Program note

クロード・アシル・ドビュッシー (1862~1918) Claude Achille Debuss ピアノ:柳河瀬 貴子

★ベルガマスク組曲 第3曲「月の光」 Suite Bergamasque No.3 “Clair de Lune”

ベルガマスク組曲の中の第3曲「月の光」は、ドビュッシーの作品の中でも最も有名であり単独でも弾かれる。ドビュッシーが28歳のとき手がけた初期の作品で、ほとんどがピアノで演奏され、夜想曲でやさしく切ない曲想である。

★前奏曲集 第2巻 第12曲「花火」 Preludes Book 2 No.12 "feux d'artifice”

ドビュッシーの作曲した前奏曲は全24曲あり、各12曲からなる曲集で、第1巻、第2巻に収められている。1912年に完成された第2巻は20世紀音楽の先駆けとして評価されている。花火は前奏曲集第2巻の最後を締めくくる曲で、パリ祭の花火を描いたかのようなこの作品は色彩感にあふれ、花火が鮮やかに夜空を彩る光景が目に見えよさうである。エンディング近くではフランス国歌「ラ・マルセイーズ」からの引用も聴こえてきます。

ウジェーヌ=オーギュスト・イザイ (1858~1931) Eugène-Auguste Ysaÿe, ヴァイオリン:河野 由里恵

★無伴奏ヴァイオリンソナタ 作品27-1 Sonata pour seul violon, Op.27 No.1

イザイがこの6曲のソナタ集を作曲したのは1923年、65歳の年であった。この頃イザイは演奏活動からは事実上引退をし、作曲が仕事の中心となっていた。6曲はそれぞれ当時のヴァイオリニストに献呈されており、この1番はシゲティに捧げられた。シゲティはこのイザイからの献呈に興奮を感じ、その後自分に献呈されたどの曲もこの時の感激を超えるものはない、と語っている。

フレデリック・ショパン (1810~1849) Frédéric François Chopin ピアノ:萩野 陽子

★バラード第2番 へ長調 作品38 Ballade F-Dur Op.38

夢想的な第一主題が始まり続いて入る第二主題はさながら吹き荒れる暴風雨の様相となります。この対比が際立ち、聴く人に強い印象を与える曲になっています。低音部で鳴らされる雷鳴のようなトリルをきっかけに怒涛のようなコーダになだれ込み、感情が最高潮に達したところで急に悪夢から覚めたように第一主題が回想され、曲を閉じます。ショパンの繊細な幻想性と、それとは対照的な激しい気性が見事に対比された一曲です。

ジョン・マクドナルド (1956~ ) John McDonald

★コンメモレイティブ・オファリング Commemorative offering

この曲はアメリカ人として広島長崎の原爆投下の惨事を様々な映像や丸木夫妻による絵画を通して「見て知った」その衝撃をピアノ作品にまとめたものです。

ジョン・マクドナルドはボストンで活躍する作曲家で、「作曲は自分にとって、日記や手紙を書くようなこと」と言います。これまでもそのような書かれたピアノ曲はすでに500曲以上にもなるようです。

フランツ・リスト (1811~1886) Franz Liszt

★愛の夢 第3番 Liebesträume No.3

愛の夢は3曲から成るピアノ曲で、「3つのノクターン」という副題をもち、この第3番が特に有名でこの曲だけが演奏されることが多い。当初はソプラノ向けの歌曲として作曲されたが、1850年頃に作曲者自身がピアノ独奏版に編曲した。ハンガリー生まれのリストはピアノの魔術師と呼ばれ、リサイタルを初めて行った人物でもある。彼は演奏活動のみならず、教育活動においてもピアノリズムの発展に貢献し、多くの弟子を育成した。